

(様式)

令和7年度 高校生防災アクション計画・報告書		学校名	岐阜県立恵那南高等学校		
1・目標					
災害に関する正しい知識や行動力を身につけ、非常事態に対応できるよう防災・減災意識を高め、「命を守る」ために必要な資質や能力を育てる。					
2・異なる危険を想定した年間3回以上の命を守る訓練 ※行が不足する場合は追加をすること。					
回	年月日	想定する危険	実施内容	参加人数	
1	計画	令和7年6月13日	地震	全校一斉による避難行動の実施	生徒・職員 165名 その他 () 名
	実施	令和7年6月13日	地震	全校一斉による避難行動の実施	生徒・職員 162名 その他(防災士) 1名
2	計画	令和7年10月3日	火災	全校一斉による避難行動の実施	生徒・職員 165名 その他 () 名
	実施	令和7年10月3日	火災	全校一斉による避難行動の実施	生徒・職員 159名 その他(消防士) 2名
3	計画	令和8年2月12日	弾道ミサイル	予告なしのシェイクアウト訓練	生徒・職員 121名 その他 () 名
	実施				生徒・職員 名 その他 () 名
3・防災に関する主な取組の計画 ※防災教育に関する講話・授業・行事等の実施月と内容について簡潔に記入してください。					
<p>(1) 起震車体験 第1回「命を守る訓練」(6月13日) 避難後に実施。</p> <p>(2) 減災力テスト 美化防災委員 1回目を実施。(4月18日)</p> <p>(3) 職員研修会 「災害状況を想像する力を身につけよう」南海トラフ巨大地震を想定した机上訓練(9月19日)</p> <p>(4) 「災害伝言ダイヤル」カード配布 全校生徒にカードを配布し、財布や定期入れに入れておくよう提案。(10月1日)</p> <p>(5) 消防署員による啓発 第2回「命を守る訓練」(10月3日) 避難後に水消火器の放水訓練を実施。</p> <p>(6) 減災力テスト 美化防災委員 2回目を実施。(11月4日)</p> <p>(7) クロスロードゲーム 恵那市危機管理課の協力を得て美化防災委員会と保健委員会がゲームを実施(24名)。 令和7年11月19日(水)</p> <p>(8) 地球環境科学(3年次生 学校選択科目) 関東大震災と名古屋市の都市計画を学習する。(12月)</p> <p>(9) 科学と人間生活(2年次生 授業) 内陸性地震とプレート境界地震が起こるメカニズムを学ぶ。(1月)</p>					
<p>(1) 起震車体験 第1回「命を守る訓練」避難後に実施。 恵那市危機管理課の協力を得て、起震車と防災士を派遣して戴いた。各クラス代表1名を選出し、4名単位で起震車体験をし、他の生徒は防災士の説明と揺れの様子を観た。起震車には過去に発生した地震の揺れの状況がプログラムされており、今回は関東大震災、阪神淡路大震災、震度7の揺れを体験した。</p> <p>(2) 職員研修会 南海トラフ巨大地震を想定し、職員が5名単位のグループを構成し、防災教育教材『災害状況を想像する力を身につけよう』(東京大学生産技術研究所目黒研究室)を使用した机上訓練を実施した。震度5強の地震が12時30分に発生した想定で、生徒を安全に避難させるための連携方法や配慮事項を討議した。</p> <p>(3) 消防署員による啓発 第2回「命を守る訓練」避難後 訓練終了後、消防署員から火災発生時の注意事項、家庭にも消火器や煙探知機を設置する対策が有効であるなどの講話をして戴いた。その後、消防署員の説明を受けて、各クラスの副委員長が水消火器の放水訓練を実施した。</p> <p>(4) クロスロードゲーム 恵那市危機管理課の協力を得て、防災士2名の指導で美化防災委員会と保健委員会の24名がゲームを実施した。生徒は5名単位のグループで取り組んだ。このゲームは災害対応で見られるジレンマを題材にして、参加者が二者択一の設問にYESまたはNOの判断を下し、その後相互に意見を交わす集団ゲーム。ジレンマの題材には、「避難者の人数分確保できていないが、届いた緊急食料をすぐに配るか」、「学校教育の早期再開を犠牲にして、学校用地に仮設住宅を建てるか」など防災関係職員や市民にとって身近で切実で重要な問題が取りあげられ、ジレンマ問題毎にグループで討議した。</p> <p>(5) 地球環境科学(3年次生 学校選択科目) 江戸から移り変わった東京の近代的な都市計画が完成しないうちに関東大震災が発生した。地震後に発生した火災による被害が大きく、災害に強い都市作りが求められた。政府は1920(大正5)年に東京・横浜・名古屋・京都・大阪・神戸の6都市に都市計画法を制定していた事もあり、第二次大戦後大きな被害を受けた名古屋市は災害に強い都市作りを速やかに実施し、東西に交差する100m道路を2本敷設し、延焼防止と避難場所の確保などが実行できたことを学習した。</p> <p>(9) 科学と人間生活(2年次生 授業) 日本は地震が多い国である。その原因は、日本周辺の地下にある4枚のプレートの動きによる事を学び、内陸性地震とプレート境界地震が起こるメカニズムを学習した。(1月)</p>					
連携した組織など	<input type="checkbox"/> PTA <input type="checkbox"/> 幼稚園・保育園 <input type="checkbox"/> 小学校 <input type="checkbox"/> 中学校 <input type="checkbox"/> 大学・専門学校 <input checked="" type="checkbox"/> 市役所・町村役場 <input checked="" type="checkbox"/> 消防署 <input type="checkbox"/> 病院等医療機関 <input type="checkbox"/> 警察署 <input type="checkbox"/> 气象台・気象庁 <input type="checkbox"/> 防災・減災センター <input checked="" type="checkbox"/> 防災士会 <input type="checkbox"/> 企業・NPO法人() <input type="checkbox"/> その他()				
減災力テスト	回	平均点	実施学年	備考	
	1	44.8点	<input checked="" type="checkbox"/> 1年生 <input checked="" type="checkbox"/> 2年生 <input checked="" type="checkbox"/> 3年生 <input type="checkbox"/> 4年生	美化・防災委員 13名	
2	59.0点	<input checked="" type="checkbox"/> 1年生 <input checked="" type="checkbox"/> 2年生 <input checked="" type="checkbox"/> 3年生 <input type="checkbox"/> 4年生	美化・防災委員 13名		

(様式)

<p>成果と課題</p>	<p>【成果】日常生活を脅かす1つに災害がある。年3回実施する「命を守る訓練」で意識化はされていると思う。本年は、4月に「南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ」が報告書を出した。新聞やテレビなどでも報道があった。日頃から巨大地震が話題になる中で、生徒に「災害伝言ダイヤル」カード配布した。また、教科学習(社会や理科)も例年より身近に感じられたと思う。また、美化防災委員会と保健委員会は「クロスロードゲーム」を体験した。ある生徒は「災害をテーマにYESとNOの二択を迫られた。同じ判断であってでも意見内容が異なり、自分にはない意見を取り入れる事ができ、否定もされなかったため、意見を伝えやすかった」と感想を書いている。</p> <p>「危機管理マニュアル」は毎年更新して職員に配布・説明をしているが、職員研修で南海トラフ巨大地震の机上訓練の実施により意識化できたと思う。</p> <p>本年は、気仙沼市や大分市での大規模災害、全国でのクマの出没など防災を考える1年であった。</p> <p>【課題】「命を守る訓練」は毎年3回実施している。生徒にとって恒例行事になってマンネリ化する傾向がある。恒例化しないよう訓練に工夫を加えて目新しさや新たな視点に気づけるような取り組みが必要である。危機感をあおるばかりでは日常生活を平穏に送る妨げとなるので、災害に対する事前準備(物品・心構え)として防災にも活動を広げたい。</p>
--------------	--

※網掛けの項目については、報告の際に記入をしてください。計画書・報告書のページ数に制限は設けません。行が不足する場合は、適宜追加してください。図、写真の貼付や報告書に加えて資料等を添付していただいても構いません。その場合は個人情報・肖像権等に配慮願います。